

たからものにゆうす

Vol.4
2009.1

特集：ふくしまでがんばるひと①

『工房おりをり』主宰

織り人 鈴木美佐子さん

「手しごと」をきわめたい

愛してるから
手間ひまかけられるんでしょ



桃の枝で染色する『桃染め』した糸で織物を織っていると伺い、耳慣れない『桃染め』に興味を引かれ、福島市南沢又、住宅と畑が仲良く隣り合うあたりに、『工房おりをり』を訪ねた。
この工房で、鈴木美佐子さんは織物、草木染め、それにフェルトなどの羊毛クラフトを作り、教室を開く。

「桃染め」はライフワーク

白河出身の鈴木さんが初めて福島市にやって来たのが、十五年前。家の前には桃畑が広がっていた。まずは、そのおしさに魅せられた。果実を堪能すると、さっそく染色家魂に火がついた。桃農家から剪定した枝を譲り受け、細かくぎざんで煮出した染色液を熟成させ、糸や布を染めてみた。作業を繰り返すたびに、感動したり、ガッカリしたり。枝だけではなく、根で染めたりもしてみた。染色液の熟成具合もいろいろ変えてみた。十五年間試行錯誤を重ねて



派手すぎず、地味すぎず、さすけね色

桃染め織り



藍を育て、摘み染める

藍染め織り

も、まだ満足していない。もっとキレイな色が出るはず。もっとやさしい色になるはず。「ライフワークよ」とうれしそうに言う。「時間をかければかけただけのことはあるの。いそがないわ」。

桃染めと聞いて勝手に桃色を想像していると、うれしい裏切りにあう。明るい肌の色から淡い琥珀の色まで、絹や綿、麻などの糸の種類や焙煎の違いによって色調はさまざまながら、上品で奥ゆかしい、決して自己主張しないけれど圧倒的な存在感がある色。「福島らしい色」と鈴木さんは言う。「派手すぎず、地味すぎず、さすけね色でしょ」。

彼女がこだわるのは「手しごと」。織りは糸から紡ぐ。紡いだ糸を染めて織る。藍染めに使う藍は自宅裏の畑で育てている。手間ひまかけてつくった本物を知ってほしい、そしてモノを大切にしてほしいと考えている。「手間ひまかけられるのって、大切な人のためだからでしょ？愛してるからでしょ？その気持ち大切にしてほしいの」。



最愛の夫の死が転機でした

「織物に出会ったのは二十一歳のとき。旅行で訪れた米沢で『米織り』の現場を見たとき『わたしが生涯かけて仕事にするのはこれだ』と思ったという。一年間、米沢で織りの技術を学んだ。

結婚して夫となった人は、そんな彼女の一番の理解者だった。転勤族でありながら、行く先々の狭い社宅に彼女の仕事部屋を確保してくれた。四人の子供を育てながらも織りをあきらめずにくらべたのは「続けるべきだ」と励ましてくれた夫がいたから。そんな夫が八年前に亡くなった。

喪失感から半年ほどは何もできない、食べられない日が続いたという。それでも、夫が残してくれた「今までやってきたことを続ければ大丈夫」という言葉に従うことに迷いはなかった。もう一度織物を始める決心をすると行動は早くて大胆だ。

京都で一から勉強し直し、福島市の自宅に工房を開いた。工房で教室を開き、生徒に染色や羊毛クラフトを教えるほか、出張教室も行っている。

本場を知らなければと、羊毛の産地であるニュージーランドへも行った。草木染めのルーツであるインドを訪ねたこともある。「インドでは食事が合わないのか同行した皆さんは痩せて帰ってきたのに、私だけ太って帰ってきたのよ」と、くったくない笑顔が充実した旅を伺わせる。

TOPIC

2009年1月下旬
福島市大町に
「町工房おりをり」
OPEN



織物／草木染め／羊毛クラフト



〒960-8254
福島市南沢又館ノ内88
携帯 090-2362-5206
URL <http://d.hatena.ne.jp/oriwori/>



わたしは出会いに

恵まれているの

いろいろなことを

繋げてくれるのよ

『手しごとをきわめたい』が彼女の願い。手しごとの良さを多くの人たちに伝える活動も、その願いに突き動かされてのことだ。

出張教室には学校関連のほか、障害者施設や未熟児育児サークルなど様々なグループがある。特にそういう機会を選んでいくわけではない。「世の中にはいろいろな人がいてあたりまえ。だからいろいろな人に教えるのはあたりまえなの。どんなところからも声がかかれば行くわよ」。ただし、いろいろな人に教えるには苦勞もある。もっとコミュニケーション力を高めなければ、と大学の臨床心理学の講座も受講した。生涯学習センターでコーチングも学んだ。

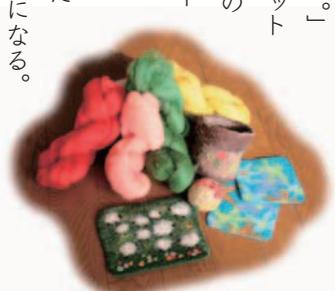
その経験がさらにネットワークを広げ、活躍の場を広げている。予定表は出張教室やイベントで埋め尽くされて空がない。「わたしは出会いに恵まれているの。自然の流れに任せていると、みなさんがいろいろなことをどんどん繋げてくれるのよ」と、こともなげに言う。「恩返ししなくちゃね」。



個性を生かせば 失敗なんかかない

「何事もプラスに考えなくちゃ。失敗しても『あーやっちゃった』じゃなくて『やり直せるラッキー』って考えるの。失敗を失敗だって指摘されるとトラウマになっちゃう。」

教室にはキットと呼ばれるものがない。キットにしてしまう
と見本と同じ
ようにつくった
人が上手な人になる。
それではつまらない。フェルトならまず色を選ぶ、その色を使って何をつくるか考える。「どんな人も特別なものを持つているの。それを大切にしないで」は、「個性を生かせば、すべてが素晴らしい作品になる。失敗作なんかかない。」



福島は「いいあんばい」

福島には自慢できるものがいっぱいある。温泉、花見山、吾妻山の雪回廊、くだもの…、穏やかに過ごしやすい。何よりいろいろなことに目が届く、話が届く、この距離感が「いいあんばい」なのだそう。だから繋がれるのよ。

彼女が今一番自慢したいものは『民家園』なのだとか。民家園にある弓棚ゆみだなは、ばた正平先生と佐藤和子先生を中心として『八橋織り』を復元するプロジェクトに取り組んでいる。「これはすごいことなのよ。うわさを聞いて県外からもたくさん人が見に来ているの。でも地元の人には知らないのよね」と残念がる。福島市民はもっと福島よさに気づいてほしいという。それには情報が足りない。「印刷会社さんは、もっと福島のことばらしきこと、がんばっている人の情報をみんなに伝えて下さいね」とエールを頂いてお暇した。



2008
ワークショップ
シヨット



『FOR座REST』
(民家園) 2008.7.12-13
ワークショップに参加
頂いた皆さんの協力で
完成したニードルフェルトの
『地球にエコの芽を咲かせたマット』

国際カエル年記念イベント
「かえるフェスタ」(空cafe)
2008.9.13
ワークショップ
「カエル王国を作ろう!」
ニードルフェルトでカエル制作



『空cafe・マーケット』
(びつき山) 2008.10.26
オリジナル作品の展示販売の他、
羊毛フェルトで簡単に制作できる
ミニ・ワークショップを開催



タカラモノニュースは、お客様の「楽しい、ウレシイ」に役立つ情報提供を目指して、年4回発行しております。ご意見ご要望など、なんでもお気軽にお寄せください。



発想から発送までお客様のニーズにお応えします。

タカラ印刷株式会社

〒960-8141 福島県福島市渡利字絵馬平86-9
TEL.024-526-4303 FAX.024-526-4302
E-mail takara@inaka.co.jp http://www.takara.inaka.co.jp/



RB-ISO
RB-Q04008



JAB
QMS Accreditation
R050

適用範囲：印刷・製本・社会調査